



共創、協奏、狂走。



2025

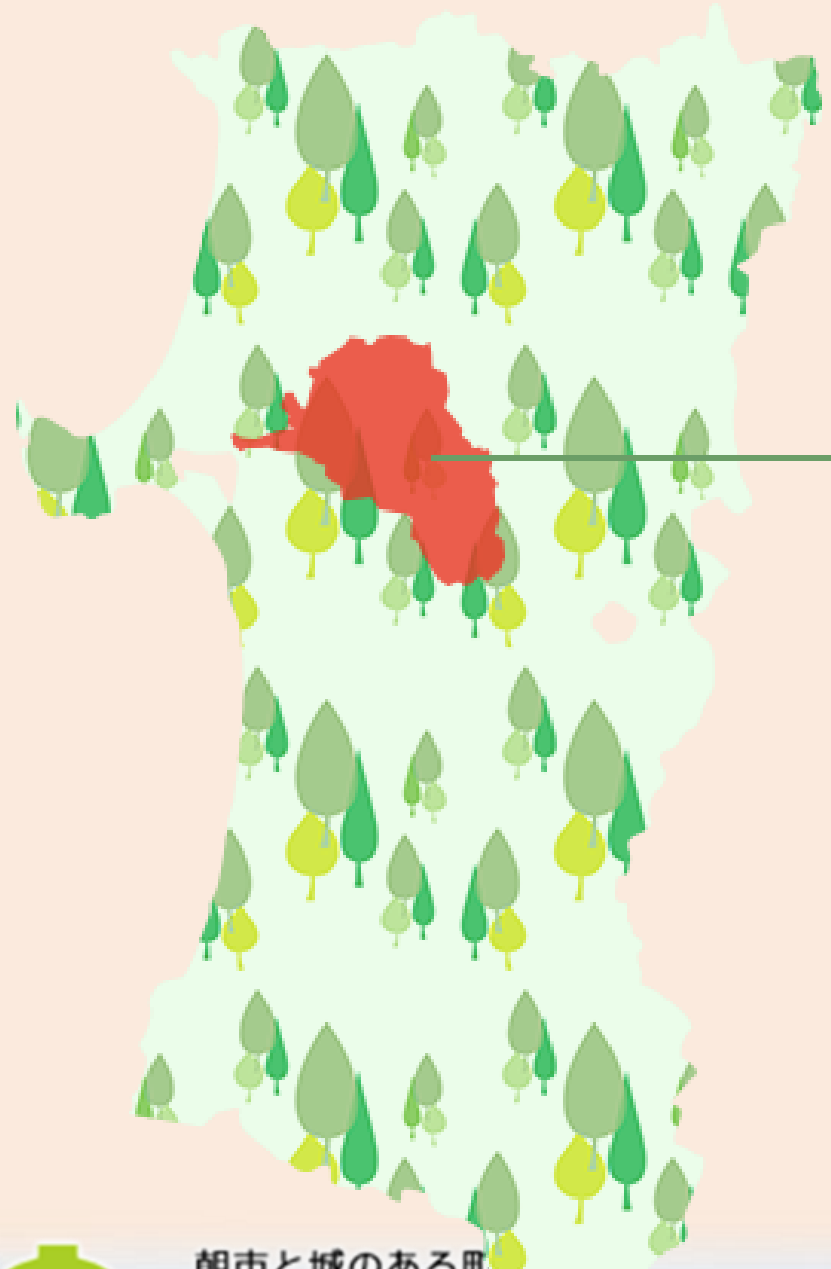
LOCAL ZEBRA PROJECT

# 令和7年度実証事業 最終報告書

一般社団法人ドチャベンジャーズ

2026.2.27 柳澤 龍


# I 自己紹介 秋田県・五城目町について





**秋田県五城目町**  
(ごじょうめまち)  
秋田県のほぼ中央部に位置する町で、  
山々に囲まれた地形により  
古くから林業・朝市などが栄えています。  
面積：214.92 km<sup>2</sup>  
人口：8,792(2018年0月)  
※Wikipediaより引用




## 面積の8割が森林 木材の町・職人の町として発展

 **人口規模**  
7,562人 (2025.12時点)

 **広大な面積**  
214.92km<sup>2</sup> (面積の8割が森林)

 **高齢化率**  
52.1% (2024.7時点)

 **位置**  
秋田県中央部に位置(干拓による大潟村の東方)  
秋田市まで約40分

# 1 自己紹介 ドチャベンジャーズについて

2025 LOCAL ZEBRA PROJECT



「世界一こどもが育つ町」をビジョンに地域に根ざしたチャレンジを支援し、学びの場の創出を通して“次世代への投資”に取り組んでいます。

## ■ 廃校オフィスBabameBaseの企画運営

入居者数

3 社/団体

44 社/団体

2013-2025  
延べ入居者数



入居者ジャンル

- デザイン
- ドローン講習
- 金型制作
- 教育
- 人材育成
- 設計
- 美容室
- 写真館
- レストラン/商品開発
- システム開発
- 医療
- 研究室



## ■ ドチャベン(土着のベンチャー)の理念

丁寧に生きる人からしか、  
生まれたいベンチャーがある。

ドチャベン・アクセラレーター【田舎発、事業創出プログラム】



## ■ “学び”を通じた次世代への投資

<p>五城目町教育留学</p>	<p>JICA 海外協力隊</p>	<p>Address</p>	<p>BabameBase</p>
<p>新校舎 「越える学校」 (教育留学・みんなの学校)</p>	<p>「大学連携」 (さとのば大学・JICA・AIU)</p>	<p>朝市通り・空き家 「滞在受入」 (Address)</p>	<p>BabameBase 視察・見学</p>
年間20組	年20名	年間50名	年間5000人

学びに関わる関係人口(中長期滞在)の基盤が年間約100人構築



# 自己紹介

## 自律対話型の風土から、“わたし”からはじまるプロジェクトが育まれるエリアに

2025 LOCAL ZEBRA PROJECT

### 530年続く朝市を地域内外に開いた朝市plus+



空き家×新事業！  
30拠点が立ち上がる



アートギャラリー  
ものかたり



いちカフェ



ただのあそび場

### 温泉宿の再生からデジファブ集落まで！ 共同出資での事業づくり



地域住民30人が共同出資  
コロナ禍で廃業した温泉を、地域住民が声を掛け合い、特別定額給付金を出し合って再生



地元企業6社の共同出資  
530年続く朝市通りのエリアマネジメントを、酒蔵、建設を展開する地元企業が立ち上げ。



5人で共同出資で建設  
デジタルファブリケーションを活用して、地元産の木材だけで建てた5部屋を結した長屋を貸し出している。

学びの場を住民が立ち上げ  
対話が続くプロジェクト

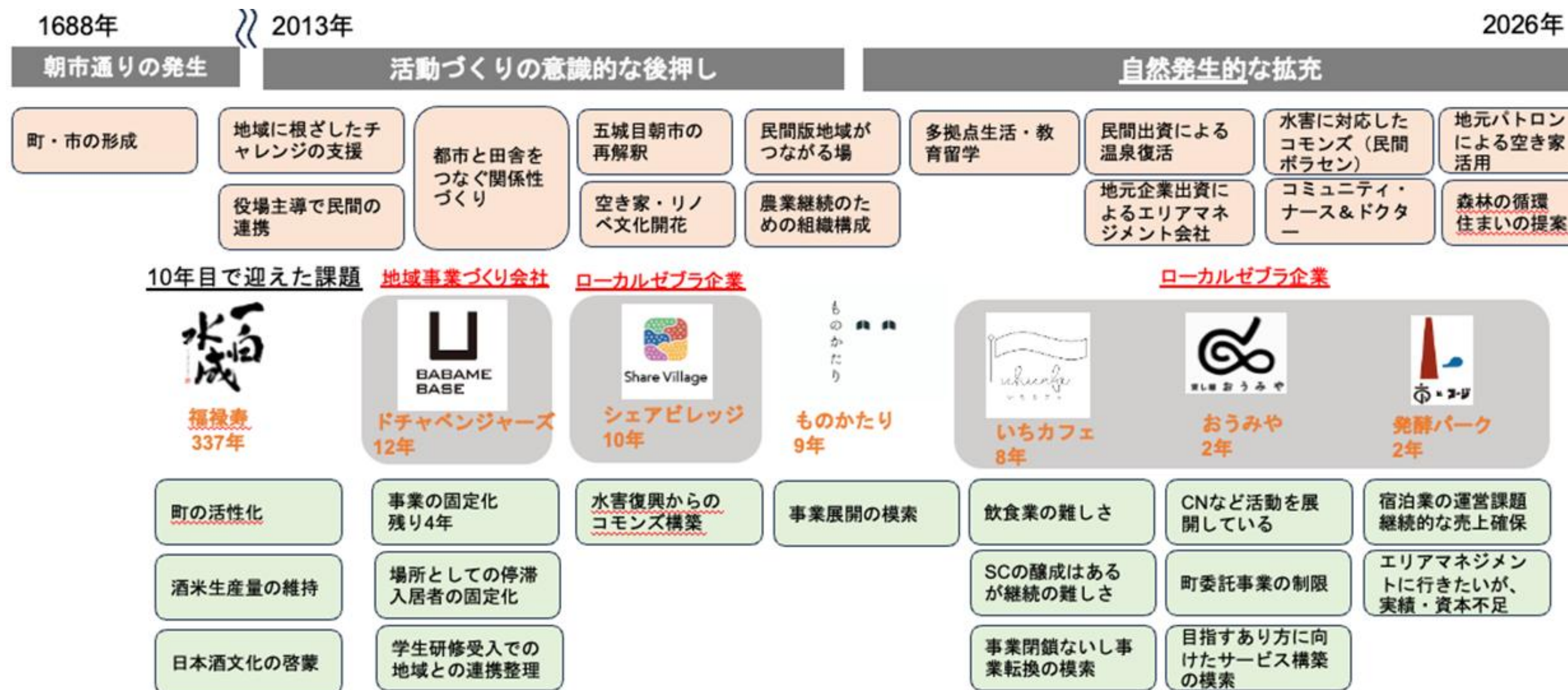


都市圏から遠く、主産業もなく、高齢化率が高い中山間地域である五城目町では、この10年で多様な民間チャレンジが自然発生的に広がってきた。しかし、それぞれの取り組みは個別最適にとどまり、連携や資金循環、共通の地域ビジョンが十分に形成されていない。その結果、事業は生まれても持続的なエコシステムには至らず、地域全体としての構造転換が進みにくい状況にある。

### 地域の現状

- ・都市圏から遠い  
→秋田市(30万人)から約1時間
- ・主産業がない  
→農林業が中心。工場など撤退が続いている
- ・高齢化率が52%  
→働き手の不足が続く
- ・観光地ではない  
→朝市はあるが、月2回の午前中しか人は集まらない
- ・人口減少が進んでいる  
→現在7500人、年200人ペースで人口減少している

### 10年の挑戦で見た成果と限界



### 地域の課題

- ① エコシステム未成熟  
個別挑戦はあるが接続されない
- ② 地域ビジョンの不足  
10年後を語る共通言語がない
- ③ 資金循環の弱さ  
地域内資本が動かない
- ④ 自治構造の空洞化  
制度はあるが運用されていない

## 課題 エコシステム・ビジョンの欠如

町全体では個別の事業は地域全体で増えているものの、①地域エコシステムがないこと、②地域ビジョンがないことへの問題意識があった。それによって、事業連携が進まない、資金循環がおきない、行政との連携が個別がゆえに弱いということがあった。

## 仮説 地域ビジョン作り

地域事業づくり会社とローカルゼブラ4社で議論し、各社のビジョンとロジックモデルを作成した上で、全体で集まる場を設けて共通ビジョンの策定を試みた。想定して取り組もうとした。

## 気づき 「まとめる」発想では機能しない

話し合ったが、ビジョンを1つにまとめることはできなかった。それぞれが独立した気質をもっていること、青年会議所や部活などのつながりが薄い、連携するにも事業規模が小さく難しい、まとめようとする対話が停滞してしまったことが要因だった。

## 仮説転換 意志(やりたいこと)を集める”器”にする

ビジョンをまとめるのではなく、意志を集める器、呼び水となるものとした。そして、関わる人が新たに意志を加える接続装置としてDAOの活用を位置づけた。



## [構造設計 | DAOを接続装置に]

上図：クマDAOを中核とした意志の器

意志を集める器としてDAOを構想し、自然と経済の共生を中心に置いた。DAOは実行組織ではなく接続装置として位置づけ、意志を集めて、接続し、事業を創出していく地域での新たな関与・関わりしろの設計を担う。また、DAOのコンセプトとして、森の食物連鎖の頂点で、森の豊かさの象徴であり、森の再生を促す存在としてのクマを標榜。群れをなさない一方で、多様な植生を育むあり方を受けて、クマDAOとした。

より多様な意志を集めた器をつくるため、地域で「対話の場」を立ち上げ

—第1回の様子—

- クマとの共生を考える勉強会
- 近年、全国的にクマの出没と人身被害が急増し、特に秋田では深刻な状況が続いている。本会では、問題を単一要因で捉えず、気候変動や人口減少、政策の転換を起点とする森の変化、里山の荒廃、野生生物の生態の変化など複合的な背景を多角的に検討し、野生生物、特にクマと共生する方法を探る。生態学者、マタギ、里山研究者、行政担当者らが一堂に会し、科学と現場知を統合した議論を重ね、秋田発の実効性ある提言を国に届けることを目的とする。また、会議の内容を一般公開し、市民にもわかるように野生生物や森の現状と見解を紐解く。

#### ■ 第1回参加者

阿部 健一（総合地球環境学研究所 上廣環境日本学センター）  
 星崎 和彦（秋田県立大学／森林生態学者）  
 伊藤 秀夫（秋田県・五城目町 猟友会長）  
 伊藤 良太（健康の森プロジェクト代表）  
 小松 和彦（秋田公立美術大学 郷土史研究）  
 松浦 真（五城目町議会議員）  
 赤石 旺之（株式会社Wildlife Ventures）  
 竹内 隆太（一般社団法人RCF）  
 奈良 悠生（井戸端サウナ）  
 丑田 俊輔（シェアビレッジ株式会社）  
 藤木 泰寛（NPOあきた結いネット）  
 高橋 今日子（世界銀行／東京大学／国際教養大学）  
 柳澤 龍（一般社団法人ドチャベンジャーズ）  
 増村 江利子（NPO法人グリーンズ）

#### ■ プレスリリース

ABS秋田放送ほか

【特集】クマがテーマの勉強会 研究者・猟友会・住民などが意見を交わす クマが大量に生息するほど自然豊かな秋田の光と影...クマとの向き合い方について考えを深める 秋田・五城目町  
 （2026年3月3日掲載） | ABS NEWS NNN



## 【クマDAOで目指すこと】熊問題を「負債」から「価値創出の起点」へ

### 1. 地域課題を起点に新しい経済循環

獣害を単なる被害で終わらせず、加工・流通・体験へ接続する

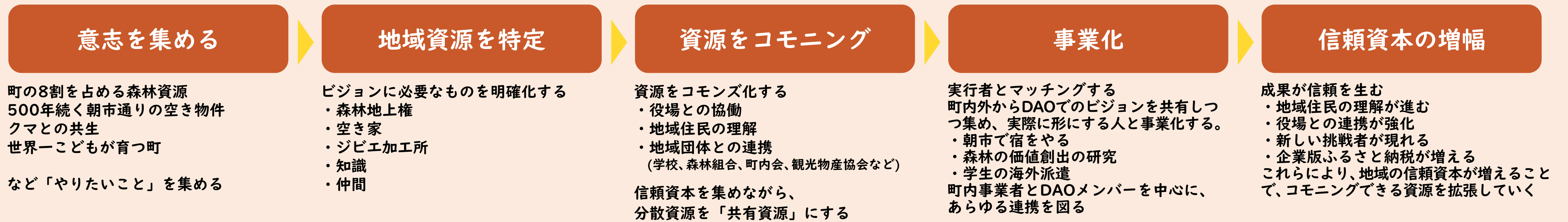
### 2. 地域資産のコモンズ化

森林、朝市通り、不動産を民間で活用可能な共有資源へ

### 3. 信頼資本が増幅する地域構造

事業成果が信頼を生み、さらに大きな挑戦を可能にする循環

## 【クマDAOを中核とした地域コモンズ循環モデル】地域事業づくりの考え方



## 【クマDAOの輪郭】

### クマDAOの位置づけ

クマDAOは事業体ではない。

- 意志を集める装置
- 関係人口と資金を束ねる
- プロジェクトを生み、現場につなぐ
- × 事業経営はしない
- × 金融商品ではない

### クマDAOリターン

#### ① 宿泊優待

→ 現場を体験する権利

#### ② 熊肉の取り分(自然連動型)

その年に捕れた分を無理のない範囲で共有  
→ 自然のゆらぎを共にする設計

#### ③ 優先参加権

運営会議参加、定期セッションなど

## 【参考・補足】DAO事業としての収益設計

DAOから3つの事業を派生させ、当該事業としての集積を確保

#### ① 調査受託

地域課題の調査や、地域ビジョンの設計など、エリアにとられない広域課題や  
すぐに事業化が難しい課題への方針を模索する。  
→すでに1案件の相談あり

#### ② 事業伴走

事業を地域で展開するにあたり、初期段階で必要な業務を担う。事業が安定化  
すれば、業務は事業主体自身で執り行うことを前提。  
→すでに1案件の相談あり

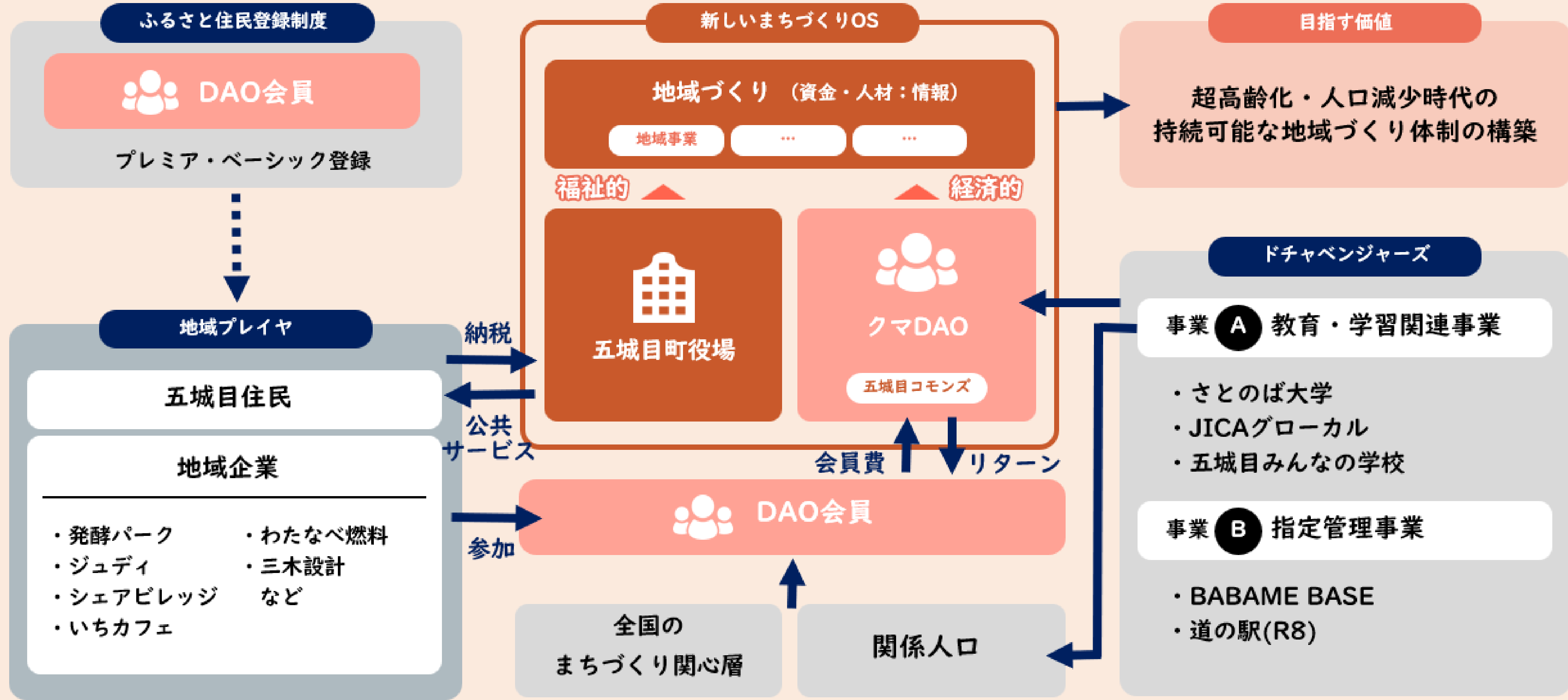
#### ③ 資金循環設計

企業版ふるさと納税、森林贈与税、寄付の受け皿など、クマDAOと地域へ  
循環する資金創出設計に取り組む。  
→すでに企業版ふるさと納税への寄付相談2件あり

3

# 実証内容（2）クマDAO構想 | 信頼資本を起点とした コモニング循環モデルの実証

収縮する地域において公共の経営リソースが低下する中で、クマDAOは新しいまちづくりOSとしての可能性も秘める



3

# 実証内容（2）クマDAO構想 | 信頼資本を起点とした コモニング循環モデルの実証

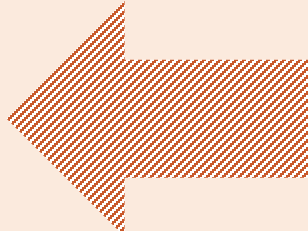
2025 LOCAL ZEBRA PROJECT

クマDAOにおける最初のプロジェクトとして、ジビエ加工場の設置事業を選定。当該事業をフックとして、DAO会員はもちろん、よりライトな関心層も巻き込み取組の裾野を広げるため、DAOに接続する形でクラウドファンディングにも着手

## DAO



寄付者からまちづくりの担い手への転換も視野



## CF



地域住民・企業も含めた、まちづくりへの関心が  
高く、より深いコミットメントを持つ層へ訴求

(実証中に既に6社の出資意思を確認)

熊問題に興味を持つあるいは地域を応援したいと  
いったライトな関心層へ訴求

(実証中に先行着手し、報告日現在50万円以上の寄付あり)

## ① 閉じて見える構造

五城目は人口7,000人規模であり、地域団体や中間支援組織の数も限られている。私たちは閉じている感覚はなかったが、外部から見ると「関係が固定化されている」「新規参入の余地が見えづらい」と受け取られた。事業や挑戦は存在するものの、それらが横断的につながる構造が可視化されていない。

▶ 課題：挑戦や関係性を“構造として見える化”し、つながりを広げる必要がある。

## ② 地域資本は存在するが、循環していない

建材業など一定の資本力を持つ事業者は存在するが、歴史的な関係性や既存のネットワーク構造により、新しい挑戦との接続が生まれにくい。その結果、地域内にある資本が、新たな事業創出や社会的挑戦に十分に循環していない。

▶ 課題：既存資本と新たな挑戦をつなぐ“中間構造”の設計が必要。

## ③ 行政との近さは強みだが、持続構造は未形成

小規模自治体であるがゆえに、行政との距離は近い。一方で、自治体の財政・人的リソースは縮小傾向にあり、行政主導型の持続モデルには限界がある。

▶ 課題：行政依存でも市場依存でもない、民間主導の自治補完構造を形成する必要がある。

## ④ 資金流入よりも「事業焦点」の形成が先行課題

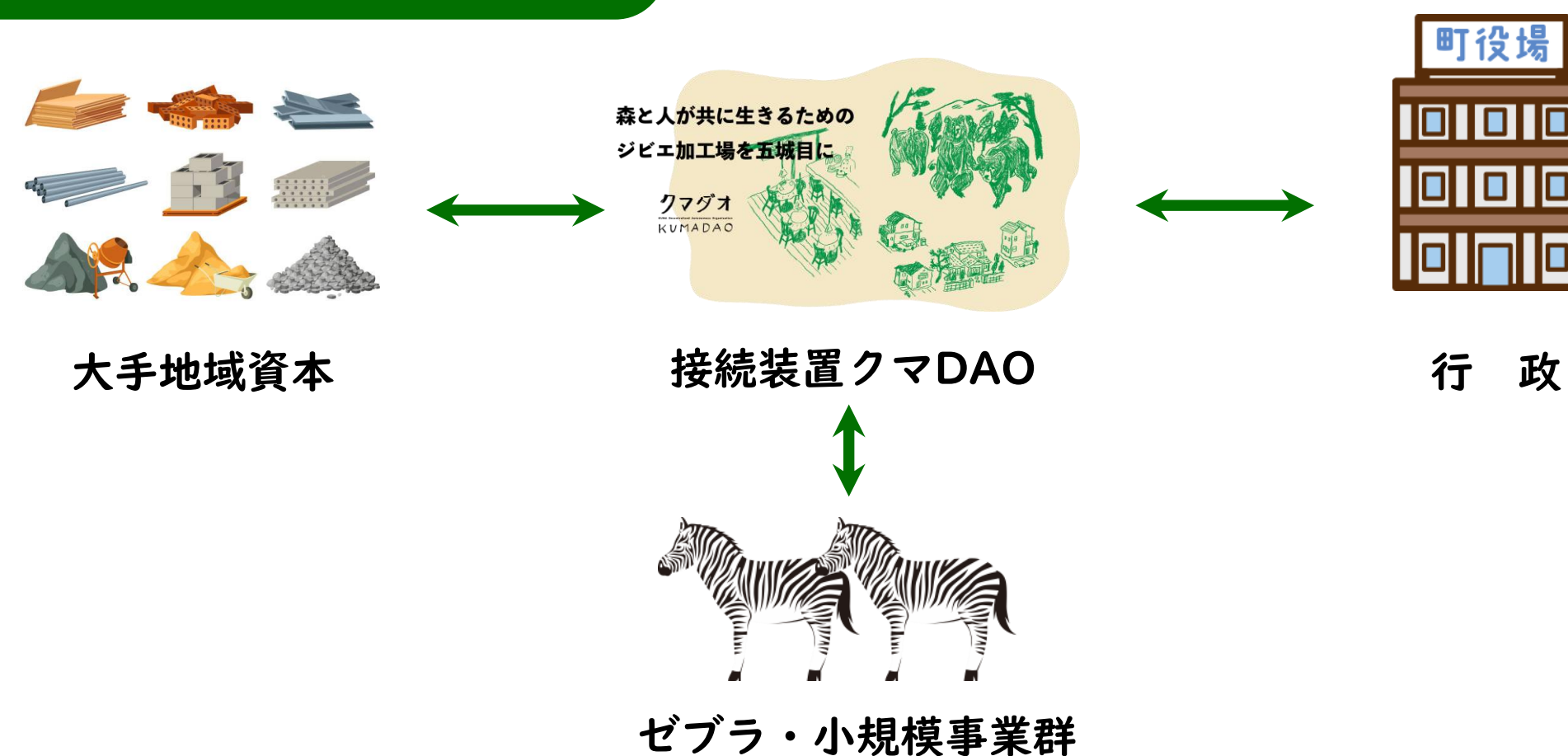
本来であれば、外部資金の流入によって地域課題解決を加速させることが理想である。しかし現状では、まず小規模でも継続的に事業化が進む“核”を形成し、その成果を通じて信頼と接続を積み重ねる段階にある。

▶ 課題：資金を集める前に、事業が回る構造を小さく確立すること。

### 五城目の現状構造



### DAOが目指す構造



### [DAOが目指す構造]

五城目のような小規模自治体では、資本を集める前に「接続を設計する」ことが必要である。本実証は、地域内の信頼や関係性を可視化し、既存資本・行政・挑戦者を接続する“中核装置”としてのDAOの可能性を模索した

クマDAOを起点に、森林・朝市通り・学びの3領域を段階的にコモンズ化し、事業化と信頼資本の増幅を通じて地域全体の循環構造を拡張する



# 5 今後に向けて ~2026年の実装計画~

2026年度は、問題提起や関心醸成のフェーズから、実装フェーズへと移行する転換点。熊に関する勉強会やメディア発信により可視化された社会的関心を、企業寄付・クラウドファンディングを通じた資金接続へと展開し、ジビエ加工場設立準備をはじめとする事業核の形成を進める

## ① 社会的関心の醸成

- ・熊との共生を考える勉強会
  - greenz.jpと連携 (全3回発信)
  - 動画配信・ウェブメディア掲載
- ・クラウドファンディング (~3月末)
- ・クマDAO正式リリース (4月)

▶ 成果：  
関与層の形成・共感の可視化

## ② ファンドレイズ

- ・6社が出資を表明
- ・金融商品型ではないDAOへの支援
- ・現在も営業アポ継続取得中

▶ 意義：  
信頼資本型モデルへの外部評価  
金融商品に依存しない資金接続の実証  
事業核形成の初期資金確保

▶ 目標：年内20社へ拡大

## ③ ジビエ加工場設営

- ・ジビエ加工場設立準備
- ・加工/流通モデル設計
- ・行政調整
- ・猟友会との連携
- ・道の駅コンペとの連携

▶ 熊問題を産業化へ転換

## ④ コモンズ化の推進

- ・空き家利活用  
(不動産事業者とゼブラ企業との連携)
- ・朝市通りとの接続
- ・大学/JICA連携での  
企業版ふるさと納税の設計

▶ コモンズ横断モデル形成



道の駅五城目 / ジビエ加工場